



Choose the future in MIYAGI

宮城県の教育機関

宮城県は全国的に見ても学生の多い県となっています。



大学学生数

57,087人(全国12位)

令和5年度学校基本調査(文部科学省)より



教育機関

宮城県には、初めて国際卓越研究大学の認定候補となった東北大学や、公立大学である宮城大学をはじめとして、多数の教育機関が集積しています。

①大学・短期大学

【県内】東北大学、宮城大学、宮城教育大学、東北学院大学、東北工業大学、東北福祉大学、宮城学院女子大学、石巻専修大学、仙台白百合女子大学、東北文化学園大学、尚絅学院大学、聖和学園短期大学、仙台青葉学院短期大学 他

【県外】弘前大学、岩手大学、岩手県立大学、秋田大学、国際教養大学、山形大学、東北芸術工科大学、福島大学、会津大学 他



次世代放射光施設 ナノテラス

②高等専門学校

【県内】仙台高等専門学校

【県外】一関工業高等専門学校 他

③専門学校等

専門学校デジタルアーツ仙台、東北電子専門学校、仙台大原簿記情報公務員専門学校、東京ITプログラミング&会計専門学校仙台校、仙台医療秘書福祉IT専門学校、仙台デザイン&テクノロジー専門学校、ヒューマンアカデミー仙台校 他

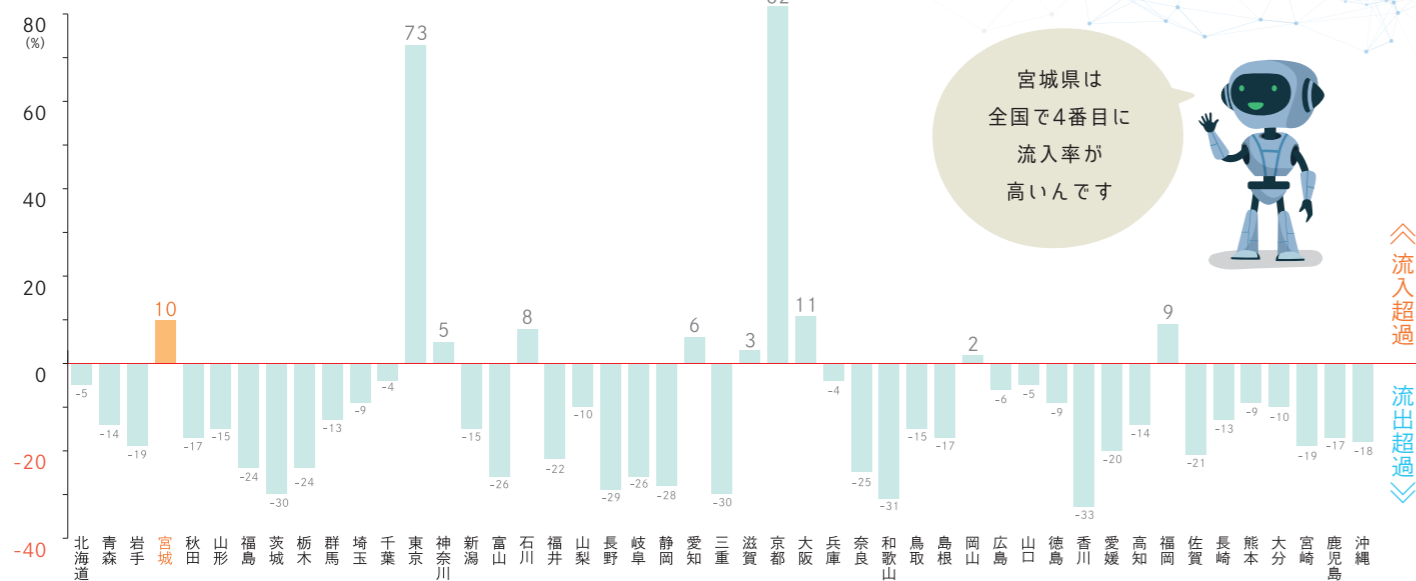
④公共職業能力開発施設

白石高等技術専門学校
東北職業能力開発大学校(東北ポリテクカレッジ) 他



大学進学時の都道府県別流入・流出率

大学進学時の流入者・流出者の割合を見ると、流入超過は全国で10都府県のみであり、また北海道・東北の中では唯一宮城県のみとなっています。



※文部科学省「学校基本統計(令和2年度)」より



教育機関からのメッセージ



東北学院大学

全学を挙げてデータサイエンス教育を推進

本学は2022年度まで、泉キャンパスに教養学部情報科学科を設置し、多賀城キャンパスには工学部情報基盤工学科を設置していました。この両学科は、2022年度末をもって学生募集を停止することとなりましたが、2023年度の五橋新キャンパスの開学とともに、未来のソフトウェアエンジニアや通信エンジニアだけでなく、データサイエンティストの育成をも目指す情報学部データサイエンス学科を新しくスタートさせました。当該学科は、大学内の講義だけを受講するのではなく、実社会のデータを利活用しながら研究を進め、その結果を地域社会に還元できるような教育コースを導入しています。

また、データサイエンス学科だけではなく、本学に2023年度以降に入学する学生は、教養教育課程(TGベシク)の中で、文部科学省から認定された「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」(通称MDASH)を受講することも可能となり、全学を挙げてデータサイエンス教育を推進しています。

- 所在地 〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1(土樋キャンパス)
※土樋キャンパスの他、五橋キャンパス(仙台市若林区)、泉キャンパス(仙台市泉区)を有する。
- 設立 1886年(仙台神学校として開校)
- URL <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>
- 2022年度卒業生数: 情報通信に関わる分野では、教養学部情報科学科から107名、工学部情報基盤工学科から103名の卒業生を輩出



石巻専修大学

地域に根ざして世界に尖った大学へ

本学の情報電子工学科には情報通信コースと電気電子コースがあり、幅広い教養と専門性を両立する教育を実践しています。特に情報通信コースでは、IoT、AI/人工知能などの専門知識を身につける教育を要としています。定員一人あたりの教育資源が充実し、学生一人ひとりに行き届いた丁寧な指導を行っています。地域との連携については、学内に大学開放センターと共創研究センターを設置。「地域に根ざして世界に尖った大学」をブランドスローガンに掲げ、地域社会の知的基盤を支えながら、世界に成果を発信することを目指しています。2020年度の改組では、経営学部情報マネジメント学科が創設されました。また、2022年度の改組によって、工学系2学科(機械工学科・情報電子工学科)で横断的な教育プログラムを展開しています。2025年度からAI・IoT・ものづくり・モビリティの学びを融合し、少人数による課題解決型プロジェクト実習の授業を開始します。

- 所在地 〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1番地
- 設立 1989年4月1日
- URL <https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/>
- 2023年度情報電子工学科卒業生数: 39名(9月卒1名含む)



東北工業大学

未来のエスキースを描く。—東北の未来を描く学生育成—

本学は1964年の創設以来3万人を超える卒業生を輩出し、日本の、とりわけ東北地域の産業・経済の発展に大きく貢献してきました。これまで工学部情報通信工学科を中心に、宮城県の情報通信関連業界で活躍する人材を数多く送り出してきた実績があります。同学科では、情報処理技術や通信技術、コンピュータネットワーク、音響や画像処理技術など、情報と通信の両分野を体系的に学ぶカリキュラムを構成しています。また、本学では学生が実践的なスキルを身につけることができるよう、共同研究だけでなくインターンシップやキャリア教育など、様々な分野で企業や自治体等と共働する機会も提供しています。地元との連携を深め、在学中から実践的な場で学びを得る学生が多くいるのも特徴です。

2025年4月、本学は情報通信技術の急速な進展による社会の構造変革など今後大きく変化する社会に柔軟に対応するため、北海道・東北地方の工科大学で初めて工学部を「学科制」から「課程制」へ移行します(改組構想中)。ひとつの専門分野だけでなく、複数の分野にわたる知識とスキルを獲得した技術者、東北の発展に貢献し続ける次世代のリーダーを育ててまいります。

- 所在地 〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1(八木山キャンパス)
※八木山キャンパスの他、長町キャンパスを有する。
- 設立 1964年4月
- URL <https://www.tohtech.ac.jp/>
- 2023年度卒業生数: 735名(うち工学部情報通信工学科は100名)



仙台高等専門学校

実践的な学習で高い能力と国際感覚を有する技術者を養成

情報・電子系の広瀬キャンパスおよび機械・電気・材料・建築に関するものづくりを中心とした名取キャンパスから構成され、15歳から始まる5年間一貫の実践的な学習で高い能力と国際感覚を有する技術者を養成しています。広瀬キャンパスには、情報システム・情報通信・知能エレクトロニクスの3コースがあり、情報通信関連技術(プログラミング、ソフトウェア、マイクロコンピュータ、ネットワーク技術、IoT、AI等)を学習します。実験・実習、PBL型授業や卒業研究等などの実践的な教育プログラムに取り組んだ学生が毎年輩出されています。また、仙台高専産学連携振興会による産学連携活動、共同研究や技術相談等の受け入れ、専攻科における課題解決型インターンシップによる地域の発展・課題解決を目指した地域連携事業も行っています。情報通信産業で活躍する実践的で創造的な人材の育成・輩出とともに、研究・地域連携活動に取り組んでいます。

- 所在地 〒989-3128 宮城県仙台市青葉区愛子中央4丁目16番1号(広瀬キャンパス)
〒981-1239 宮城県名取市愛島塩手字野田山48番地(名取キャンパス)
- 設立 2009年10月(宮城高専と仙台電波高専の高度化再編により設立)
- URL <https://www.sendai-nct.ac.jp/>
- 2023年度卒業生数(広瀬キャンパス): 118人
- 2023年度卒業生の進路(広瀬キャンパス): 就職76名、進学(大学3年次編入及び専攻科入学): 38名